

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：宗田 市太郎 幹事：平尾 信明

情報委員長：清水 忠

1976・11月11日

第77号



“カウンセラーの立場から”

金沢大学教授 多田 治夫氏

出勤途中の車の中で、つい今しがたの妻との気まずい会話を思い起している。

“今日は何時にお帰りですか” 無表情で紋切型の妻の間に、

“何言ってるんだ。結婚して廿年にもなって、まだ大学教授の帰宅時間一つ分らんのか” 言い捨て、荒々しく玄関の戸を開けたまゝ、出て来てしまった。

しかし考えてみると、前の晩は一杯飲んで遅くなったな。女房のやつ、その恨みつらみやら不安やらがうつ積して、“今晚も遅くなるのですか” と言いたかったに違いない。

“あ、昨晚は遅くなって悪かったな。今晚は早く帰るよ” と、どうして一言出なかったかな。

一体、人間という奴は、相手の気持ちを考えないで、出た言葉だけでやりとりすることが多すぎる。しかし、それじゃ人間のコミュニケーションは無茶苦茶だ。

大事なことは、心の耳を澄まして、言葉にならない相手の気持ちを聴くという姿勢だろう。ねばり強く、辛抱強く。或る意味では、自分の心を無にすることかも知れぬ。

しかし、それで人間、心と心のパイプが繋がるなら、心と心の琴線が触れ合うなら、こんな素晴らしいことはないじゃないか。

— 糶殻のふかきところで りんご触れ— 橋本多佳子

— 金沢北RC例会卓話より— (文責 清水 忠)

3ヶ年の業績を顧みて (その二)

6. 会員のロータリー探求への努力

ロータリーへの道を探求するには、会員相互が語り合い、論じ合い切磋琢磨するのはもちろん、先達に聴き、またその優れた書に親しむことであろう。クラブは先づ例会の講話に深く意を用いているが、この他に次の特別講演を聴く機会をつくった。

(研修会及びI.C.G.F.の講演を除く)

- A. 認証状伝達式記念講演(49年6月16日) 職業奉仕とロータリー 神守源一郎氏(東京東RC)
- B. 創立1周年記念講演(49年9月12日) ロータリー精神と二宮尊徳 坂本惣平氏(高知・中芸RC)
- C. 創立2周年記念講演(50年10月9日) 医学辞典にない三つの現代病 安積得也氏(東京南RC)
- D. 創立3周年記念講演(51年10月7日) ポールハリスの言葉より 佐藤千寿氏(東京東RC)

尚、次のロータリー文献を共同購入して全会員が読んだ。

- A. 一人のために……………社会評論家 安積得也 著……50年12月実施
- B. 美しい人に……………清心女子大学長 渡辺和子 著……51年3月 "
- C. 青年に期待する……………パストガバナー 佐藤千寿 著……51年9月 "
- D. ようこそロータリーへ……………パストガバナー 佐藤千寿 著……51年9月 "
- E. むづかしくないヴォケーションナルサービス ……パストガバナー 塚本義隆 著……51年10月 "

7. ロータリー文献の第2集出版計画

前回刊行の“お、ロータリアン=職業奉仕とは”の文献は、日本津々浦々に愛読され、大きな足跡を残したので、第2集を52年1月中に出版し、重ねて日本ロータリーへの奉仕となれば幸いである。その内容は次の講演を活字に復元するものである。

第2集“お、ロータリアン=ロータリー精神とは”

- ◇人間らしさを求めて(I.C.G.F.特別講演) ノートルダム岡山清心女子大学々長 渡辺和子
- ◇四つのクラブの七つの驚き(I.C.G.F.基調講演) 元岡山県知事・東京南RC 安積得也
- ◇ポールハリスの言葉より(創立3周年記念講演) パストガバナー・東京東RC 佐藤千寿

8. その他の主なるもの

A. 会員増強……当クラブは創立時38名の会員をもって発足したが、爾来、慎重に厳選しつつ、漸次7名の増員を行い、51年の月末現在45名となり、ロータリーの拡大に努めつつある。

B. 例会出席率……当クラブの例会出席状況は、クラブ創立の48年10月以降、翌年の6月までの9ヶ月間の平均は99.10%であるが、以後49年7月～50年6月は1ヶ年間100%を堅持し、高岡市における地区大会において第1位の表彰を受けた。またその後50年7月～51年6月の1ヶ年間も引続き100%を維持したので、上野市における今次地区大会において、再び第1位の表彰を受ける予定である。

尚、51年7月以降の月までの3ヶ月間も依然100%を持続しつつあり、全会員のロータリーへの意欲はますます旺んなようである。

C. 財団寄金……国際奉仕への一環として、ロータリー財団及び米山記念奨学会への拠金がある。ロータリー財団に対しては一般寄金のほか、準フェローとして、山田・越野・柴田の3名がある。



一方、米山記念奨学会への寄金の日本ロータリーの現況に鑑み、当クラブでは創立以来、同会への拠金に重点をおき、会員の特別な理解と協力を求めた結果、毎年2月のロータリー記念日、4月の米山記念週間、9月の世界理解週間、10月のクラブ創立記念日の年4回、会員1名1回1,000円宛寄金を続けたので、51年9月末において累計総額は506,000円に達するに至った。今後もこれを続けたい。

- D. ニコニコボックス**……社会奉仕に活用されるニコニコボックスについては、会員の理解と協力を求め続けた結果、これまでの実績は次の通りであり、次第に上昇しつつあるのは、会員の意欲の向上であろう。

48年10月～49年3月＝6ヶ月 108,530円
 49年10月～50年3月＝6ヶ月 413,049円
 50年10月～51年3月＝6ヶ月 542,084円

49年4月～49年9月＝6ヶ月 181,850円
 50年4月～50年9月＝6ヶ月 347,796円
 51年4月～51年9月＝6ヶ月 707,276円

- E. 親善野球**……当クラブ会員事業場におけるロータリーの従業員対策の一つとして親善野球戦（早朝又は夜間）を計画したところ、会員45名のほぼ3分の1に当たる14チームの参加となり、51年7月31日に始まり、8月26日に全試合を終了したが、参加選手は200名、いづれも職域において行動力に富む中堅青年である。会員と多くの家族、従業員など応援のため動員された。



これによって、ロータリーの広報と拡大の実が挙がり、フェアなる親睦、スポーツ精神の昇揚となって、予期以上の成果を見るに至った。今後、毎年2シーズンに実施したい。これが職業奉仕委員会の企画として創始され、継続されんとするところに意義は深い。バレーボール及び卓球についても検討されつつある。

- F. 友好クラブ**……ロータリーへの視野を拡め、親睦を深めつつ学び合うため地区外の優秀クラブとの友好提携をかねて願望していたところ、良縁に出会って、昭和51年7月22日、京都洛北ロータリークラブとの間に結実した。同クラブの創立年月は当クラブと相前後しているほか、現会員数は共に45名、意欲に燃え若さ溢れるクラブである。特に当クラブが喜びとするのは、洛北RCは、かつてロビンズRI会長をして、「世界唯一のRC」と、感嘆せしめた超優秀クラブである。



最良の学友を得たことはこの上もない幸わせである。

- G. クラブ機構の合理化**……小数クラブにふさわしく、クラブ奉仕委員会の機構を大巾に改善整理し合理化した結果、効果は顕著である。即ち、職業奉仕、国際奉仕、社会奉仕の3委員会のほか◇例会（出席・ニコニコ・会場監督）◇拡大（会員選考・増強・職業分類）◇企画（プログラム・講話・細則）◇情報（会報・広報・クラブ歴史・記録保存）◇親睦（会員・家族・スポンサークラブとの親睦）◇友好（他クラブと友好・研修）◇修練（ロータリー情報・ターゲット・文献）以上10委員会とし、各委員長には理事を配して、連絡・運営に最善を期し、クラブ運営の簡素と機敏を計っている。

